

# 平成 19 年度社団法人音楽電子事業協会 事業報告

( 理事会 運営委員会 )

平成 19 年 4 月 1 日から平成 20 年 3 月 31 日まで )

## ( 1 ) 理事会の開催

### 1 平成 19 年度第 1 回理事会 ( 平成 19 年 5 月 10 日開催 )

- ・ 社団法人音楽電子事業協会「第 11 回通常総会議案書」の承認
- ・ 平成 18 年度収支決算及び監査報告の審議と総会への付議、承認
- ・ 平成 19 年度収支予算修正案の審議と総会への付議、承認
- ・ 平成 19 年度役員交代の審議と総会への付議、承認
- ・ 平成 19 年度 専門委員会委員長及び事務局体制の承認

### 2 平成 19 年度第 2 回理事会 ( 平成 20 年 3 月 19 日開催 )

- ・ 平成 19 年度事業報告案及び収支決算見込案の審議
- ・ 平成 20 年度事業計画案及び事業予算案の審議
- ・ 平成 20 年度役員選任案の審議
- ・ 第 12 回通常総会開催及び付議事項の審議

### 3 書面審議

- ・ 6 月 19 日 株式会社ディーアンドエム ホールディングス プロフェッショナルカンパニーの入会が審議承認された
- ・ 8 月 20 日 有限会社トゥロッシュの入会が審議承認された

## ( 2 ) 運営委員会

平成 19 年度 運営委員会 開催 ( 平成 20 年 2 月 19 日 )

- ・ 平成 19 年度事業報告が各委員会から報告、検討された。
- ・ 平成 19 年度収支着地見込み案を事務局から提案、検討された。
- ・ 平成 20 年度事業計画案 ( 委員会別 ) が各委員会から提案され、検討された。
- ・ 平成 20 年度事業計画案に基づき、平成 19 年度収支予算案が検討された。
- ・ 平成 20 年度第 1 回理事会、及び第 12 回通常総会の予定 ( 5 月 15 日 ) が案内された。

## 平成 19 年度社団法人音楽電子事業協会事業報告

( 専門委員会 )

平成 19 年 4 月 1 日より平成 20 年 3 月 31 日まで)

### ( 1 ) 製品・安全環境委員会

正副委員長会議 3 回、安全規格部会 6 回、環境問題研究部会 5 回、部会合同全体会議を 1 回実施した。両部会共通テーマとして、資料の全面電子化を図り、議事進行もプロジェクターによるペーパーレスとした。

- 安全規格部会は「関連規格調査と変動把握及び会員への情報提供」を中心に活動、又電気用品安全自依頼試験を 1 回実施、外部委員会活動にも取り組んだ。
- 環境問題研究部会は国内外の環境に関する法の動向調査及び情報交換を行うと共に、外部委員会(グリーン調達調査協議会)に参加した。
- 両部会の合同セミナーを「電気用品安全法(PSE)」「中国版RoHS規制」をテーマに 6 月 27 日に実施した。

### ( 2 ) MIDI 規格委員会

- 委員会 4 回、MMA との合同会議 4 回、次世代 MIDI 部会(含む WG) 7 回、技術研究部会 5 回、MIDI1.0 部会 9 回(含む次世代着メロ WG、MMI スタディグループ)を実施。
- 次世代 MIDI 部会を解散、技術研究部会を設置した。  
技術研究部会では、音楽や電子楽器の技術に関する検討を行い、現状の問題点の解決及び将来の音楽事業に貢献することを目的とする。次期プロトコルに関しては次世代 MIDI 部会より継続検討をする。
- MMA との間では迅速且オープンな連動審議体制が確立され、5 つの RP と 2 つの CA が制定された。
- MMI 仕様準拠証明のためのロゴを会員社から公募し策定。MMI 規格の事業者説明会を実施、今後はビジネスフェーズを視野に入れたプロジェクトによる活動を予定。
- NAMM2008 ビジネスツアーを 10 名の参加者で実施した。

### ( 3 ) 著作権・ソフト委員会

著作権・ソフト委員会定例会 11 回(資料-1 詳細)、正副委員長・部会長会議 1 回、カラオケ部会 20 回(JASRAC、イーライセンスとの協議を含む)、音楽配信部会(NMRC を通じての活動: JASRAC 他管理事業者との協議、関連団体との意見交換を含む) 36 回、ソフト規格部会(GCP-WG、DMN-WG) 17 回を開催した。委員会定例会を通じ情報提供、意見交換を行った。各部会は各々の領域において活発な活動を行った。

- カラオケ部会
  1. JASRAC と使用料規程の見直しに関する協議を行った。合意に向け協議を継続する。
  2. イーライセンスと業務用通信カラオケ規程に関し継続協議中。
  3. 警察庁からの飲酒運転撲滅運動への協力要請に対し、ハンドルキーパー運動の告知協力を部会の全社で取り組んだ。

- 音楽配信部会

NMRC を通じて

1. JASRAC と「（音楽以外の著作物を主たる配信目的とする）商用配信」規定の見直しについて、関連団体（出版業界、映像関連業界他）と WG を構成し、継続協議中。
2. 「歌詞付着うたファイルの取り扱いについて」「04~06 年度のストリーム按分」「原盤報告フォーマットの標準化について」管理事業者及び MPA と合意。
3. 「携帯電話のサブスクリプションの下支えの読み替え」「有期限 DL の音楽 PV の取り扱いについて」JASRAC と協議した。

\* NMRC として会員企業のインタラクティブ配信における利用曲目報告データ管理業務軽減と、JASRAC 等から楽曲の正確な権利状態を迅速に受ける為、関係省庁、関連団体と意見交換をし、集中処理センター構想をまとめた。（資料-2 詳細）

- ソフト規格部会

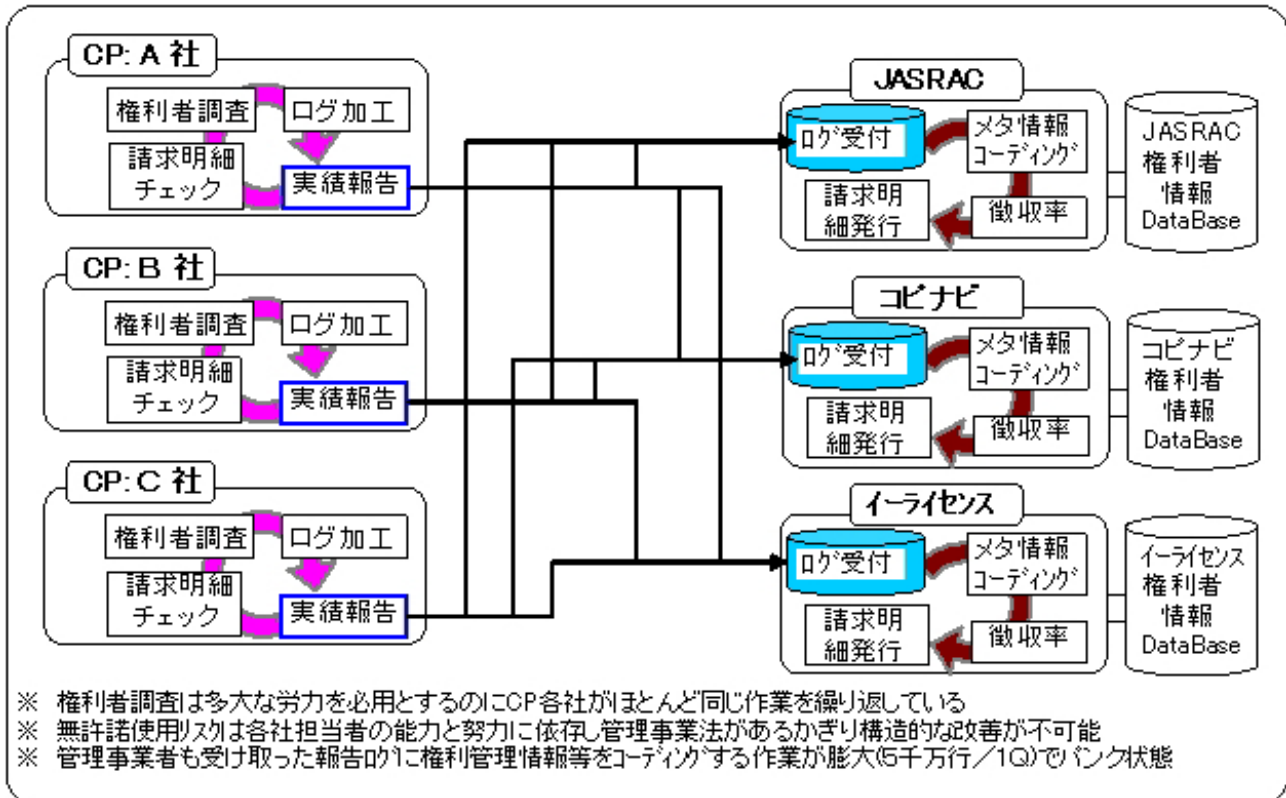
1. GCP-WG（電子楽器内蔵コンテンツの保護に関する WG）  
AMEI 統一見解書（資料-3a, 資料-3b）を完成、委員会の承認を受けた。又、顧問弁護士にも報告をした。
2. DMN-WG では外国楽曲の使用許諾獲得に向けた情報・意見交換会を実施した。

## 平成 19 年度著作権・ソフト委員会実施内要

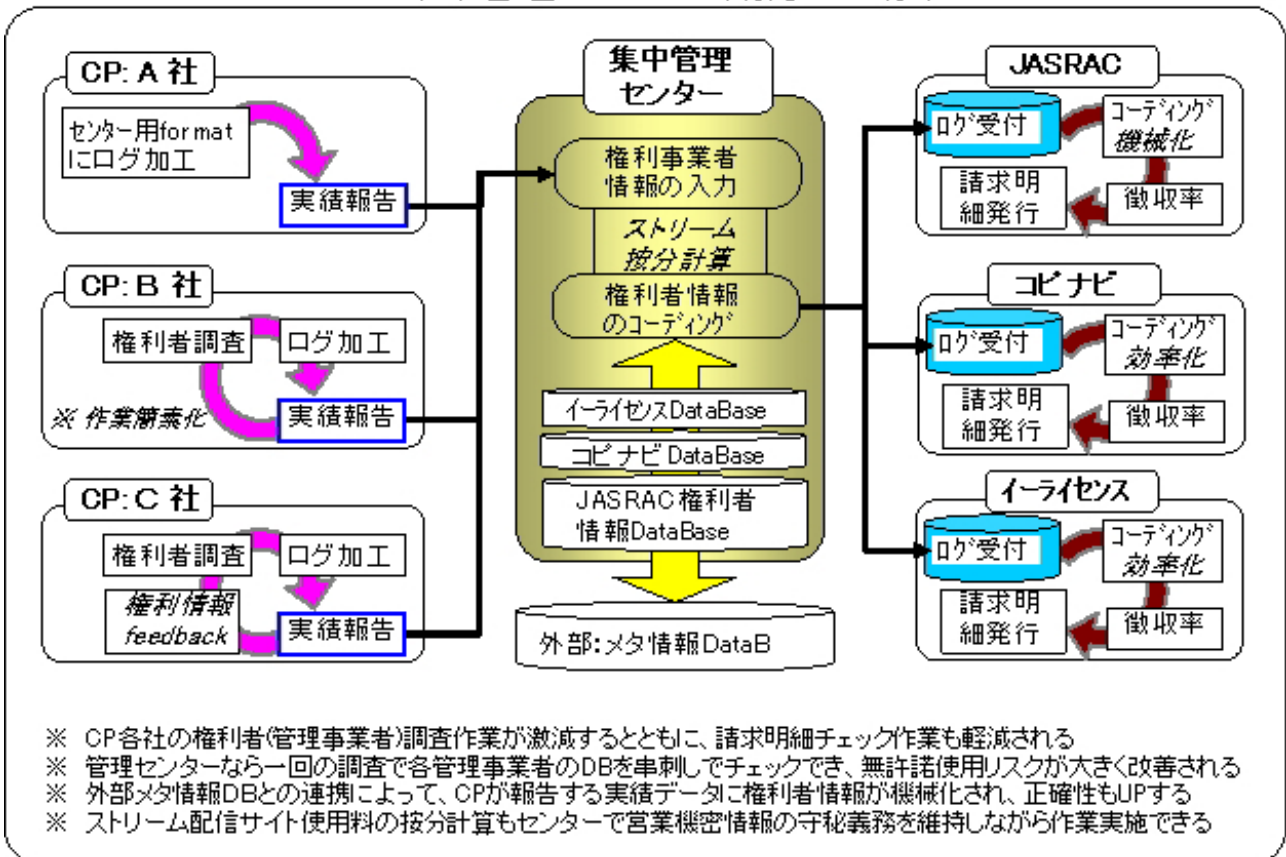
日 時	主たるテーマ	セミナー他
4月12日 (13:30~15:00)	1.委員長より今年度の活動方針及び文化庁審議委員会のテーマについて説明 2.各部長より今年度活動方針の説明サブスクリプション意見交換	
5月22日 (13:30~15:00)	1.「(音楽以外の著作物を利用する事を主たる目的として配信する場合の)商用配信規定に関する JASRAC との協議について 2.アクティブ着メロの規格(MMI)について 3.各部長報告(業務用通信カラオケ、外国曲楽譜について)	
6月14日 (13:30~15:00)	1.JASRAC 協議報告(音楽以外の商用配信、着うたフルの歌詞付楽曲の取り扱い) 2.ハンドルキーパー運動について 3.業務用通信カラオケ協議(JASRAC,イーライセンス)	
7月12日 (13:30~15:00)	1.JASRCA と「音楽以外の商用配信規定の協議の進め方について合意(WGにて) 2.ストリーム按分合意について 3.各部長報告、WG 進捗状況報告	
9月13日 (13:30~15:00)	1.RIAJ より「違法配信の識別方法についての検討」について説明 2.GCP-WG: AMEI 統一見解書(案)の説明 3.各部長報告、WG 進捗状況報告	セミナー DRM 互換(韓国 INKA 社)
10月11日 (13:30~15:00)	1.各部長報告、WG 進捗状況報告 2.MPA との「原盤利用の報告フォーマット案」について	勉強会 「電子楽器内蔵コンテンツの保護」AMEI 統一見解書について
11月8日 (13:30~14:40)	1.歌詞付楽曲データの DL 配信許諾についての要望書の件 2.業務用通信カラオケに関するイーライセンスへの AMEI 提案とその後の進捗について 3.各部長報告、WG 進捗状況報告	アクティブ着メロ新規格 「MMI」説明会
12月14日 (15:30~17:00)	1.「楽器内蔵コンテンツの保護に関する AMEI 統一見解書(最終案)」 2.RIAJ より「識別マーク利用の手引き」について説明 3.各部長報告、WG 進捗状況報告	忘年懇親会(参加 70 名)
1月10日 (13:30~14:30)	1.佐々木委員長より年始の挨拶(文化審議会の進捗状況 著作権等管理事業法の直し) 2.歌詞付楽曲 DL の取り扱いについての JASRAC 回答 3.「楽器内蔵コンテンツの保護に関する AMEI 統一見解」承認 4.「原盤利用の報告フォーマット」MPA と合意及び RIAJ に説明	
2月14日 (13:30~15:00)	1.MCF 岸原事務局長より「フィルタリング対策」の現状について説明 2.佐々木委員長より文化審議会の今年度の対応について 3.各部長報告、WG 進捗状況報告	
3月13日 (13:30~15:00)	1.平成 20 年度からの新体制について 2.サブスクリプションの下支えについて 3.民生用カラオケ WG について 4. NMRC 拡大実務 WG 報告	

## < 配信実績管理の現状 >

資料-2



## < 集中管理センターに期待する効果 >



著作権ソフト委員会ソフト規格部会  
楽器内蔵コンテンツに関するWG(GCP-WG0)活動について

ソフト規格部会 部会長  
原 正樹

WG 設置の背景

- 1.音色波形データ、リズム・バックングパターンなどの不正コピー  
ネットにて不正配布、楽器の製造販売
- 2.ローランド(米)、ヤマハ(中国)の訴訟

活動経過

- 1.WG を平成 16 年度より発足、メンバーは楽器メーカー、ソフトハウス、出版社合わせて 8 名
- 2.実施内容
  - ・約 30 回のミーティングを実施し検討
  - ・5 回の勉強会を実施  
神谷信行弁護士・・・実際に楽器の音を出しながら検討も実施  
佐藤恵太准教授(中央大学)・・・法律学の立場で意見交換

成果

- 1.各コンテンツについて権利としての整理(著作権、隣接権)
- 2.統一見解書(仮称)案の策定
- 3.FAQ 集の制作
- 4.委員会への答申 決議
- 5.顧問弁護士への相談 問題なし

今後の活動予定

- ・関連団体への説明  
レコード協会、JSPA、MPA
- ・プレスリリースの検討
- ・ホームページへの掲載(日本語、英語)
- ・中国語訳の検討
- ・ユーザへの対応、Q&A、サポート文言集

課題

- ・リリース内容、規模
- ・経産省、文化庁への説明とバックアップのお願い

「AMEI は電子楽器内蔵コンテンツについてこう考えます。」

電子楽器 1)には、音楽表現のための音色波形や演奏情報など、さまざまなコンテンツが内蔵されています。

本来、電子楽器は、ユーザーが、自身による楽器の演奏やその演奏の録音に自由に使用できるものであり、内蔵コンテンツもこのような「楽器本来の使用」を支援することを意図し製作されています。

したがって、楽器を正当に入手したユーザーが「楽器本来の使用」をする場合、これら内蔵コンテンツの使用は何ら制限されるものではありません。

しかし、昨今のデジタル技術やインターネットの普及は、電子楽器にも利便性向上という大きな付加価値をもたらした一方で、「楽器本来の使用」から外れ、内蔵コンテンツの不正な複製や頒布を誘発するという新たな問題を生むことになりました。

電子楽器内蔵コンテンツのこれら不正使用は、電子楽器を製作するものに不利益を及ぼすだけでなく、音楽文化の発展にも多大な弊害をもたらします。

AMEI は、これら電子楽器内蔵コンテンツの不正使用をなくし、正しく電子楽器を使っていただくため、以下のように提言します。

.....

次の使用方法は電子楽器内蔵コンテンツ 2)の不正使用となります。

電子楽器内蔵コンテンツを、そのまま、もしくは酷似した形態で取り出し、

- 1 .別の記録媒体に固定し、その記録媒体またはその記録媒体を組み込んだ他の電子機器(電子楽器等)を製造・販売すること。
- 2 .コンピュータネットワークを通じて公開または送信すること。

電子楽器は、ユーザーが、自身による楽器の演奏やその演奏の録音に自由に使用できるものですが、「楽器本来の使用」を外れ、無断で複製やネットワーク上での配信(送信可能化)などを行うと著作権法等の違反になる場合があります。

.....

音楽 CD や市販の MIDI データ等が著作権法で保護されていることは周知のことではありますが、電子楽器内蔵コンテンツの法的保護への認識についてはいまだ浸透していないのが実情です。AMEI は電子楽器内蔵コンテンツの知的財産権等について今後も調査研究を進めてまいります。

【語句の意味】

1) 電子楽器

ここでいう電子楽器にはハードウェアで構成されるものの他に、PC 上で音楽を制作する各種ソフトウェア製品（ソフトウェア・シンセサイザー、ミュージックシーケンサー・ソフトウェアなど）も含む。

2)ここでいう電子楽器内蔵コンテンツとは次のものをいいます。

音色波形データ

自然楽器等の音色を再生するためのサンプリング波形データのこと。

スタイルデータ

自動伴奏のための素材データのこと。

リズム、ベース、バックアップなどの音色や伴奏パターンをプリセットしたものなど。

音楽制作、演奏支援のための素材データ

専らソフトシンセなどに組み込まれているフレーズデータ、オーディオループなど。

内蔵デモ曲

以上。



( 4 ) 透かし推進プロジェクト

- プロジェクト会議を 3 回実施
- エンコーダーのハードウェアキーを RS232C から USB 対応に移行対応を実施。
- MIDIsign デコーダーの dll 化を検討した。
- MIDIsign エンコーダのパラメータ設定について、会員企業からの要望を聞いた。

( 5 ) メディアコンテンツ委員会

- 委員会を 3 回実施した。
- コンピュータミュージックのアイデアを数多く切り開いていったパイオニアの一人である作曲家のジャン・クロード・リセ氏のセミナーを実施 ( 9 月 10 日 )
- 尚美学園大学内に設置された富田勲研究室の活動紹介を含む野尻修平氏によるセミナーを実施 ( 9 月 21 日 )

( 6 ) MIDI 検定委員会

- MIDI 検定委員会を 3 回開催した。
- 第 10 回 3 級試験と第 9 回 2 級筆記試験を実施 ( 12 月 2 日 )
- 第 9 回 2 級実技試験の実施 ( 2 月 16 日から 3 月 2 日までの 6 日間、東京・大阪にて )
- 4 級試験を年間を通して実施 ( 660 名の受験 )
- 指導者認定講座の実施  
4 級指導者認定講座 受講者 42 名 ( 5 月 東京・大阪 )  
3 級指導者認定講座 受講者 35 名 ( 7 月 東京・大阪 )  
2 級筆記指導者認定講座 受講者 35 名 ( 9 月 東京・大阪 )
- 4 級対応テキスト「ミュージックメディア入門」を 3 月に改訂  
「コンピュータで音楽を楽しむ」のコンセプトを継承しつつ、より身近な楽しみ方の提案、USB を始め周辺機器との接続方法、DAW と呼ばれるようになったオーディオを含む制作環境を MIDI の知識、音の知識と共に初心者にも分かりやすく構成した。
- 中国での MIDI 検定  
日本と同日 ( 12 月 2 日 ) 第 4 回 3 級試験を実施した

中国での MIDI 検定 3 級試験推移

	第 1 回	第 2 回	第 3 回	第 4 回
試験日	2004/12/05	2005/12/04	2006/12/03	2007/12/02
試験会場	北京 蘭州 温州 鄭州 天津 (全国 5 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 (全国 7 会場)	北京 天津 瀋陽 杭州 温州 無錫 成都 青島 (全国 8 会場)	北京 瀋陽 杭州 無錫 成都 (全国 5 会場)
受験者数	112 名	252 名	144 名	128 名
合格者数	87 名	223 名	129 名	123 名
合格率	77.7 %	88.5 %	89.6 %	96.1 %

MIDI検定試験合格者数と合格率の推移(国内)

級	内容	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	累計
3級試験		第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	第10回	
	実施日	H11.1.17	H12.1.23	H13.1.28	H13.12.1	H14.12.8	H15.12.7	H16.12.5	H17.12.4	H18.12.3	H19.12.2	
	受験者数	2,964	2,737	2,145	2,009	1,871	1,965	1,742	1,469	1,275	1,051	19,228
	(内学校)	1,275	1,591	866	1,040	904	968	917	715	659	526	9,461
	合格者数	2,413	1,543	1,536	1,411	1,342	1,460	1,233	1,056	731	729	13,454
	合格率	81.41%	56.38%	71.61%	70.23%	71.73%	74.30%	70.78%	71.89%	57.33%	69.36%	69.97%
2級1次試験			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	
	実施日		H12.5.28	H13.1.13	H13.12.1	H14.12.8	H15.12.7	H16.12.5	H17.12.4	H18.12.3	H19.12.2	
	受験者数		979	594	587	391	470	404	429	308	248	4,410
	合格者数		350	240	290	228	292	108	189	187	163	2,047
	合格率		35.75%	40.40%	49.40%	58.31%	62.13%	26.73%	44.06%	60.70%	65.73%	46.42%
2級2次試験			第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	第9回	
	実施日		H12.7.11	H13.3.13	H14.2.9	H15.2.8	H16.2.14	H17.2.11	H18.2.11	H19.2.1	H20.2.16	
	受験者数		328	295	404	391	387	234	211	202	173	2,625
	合格者数		127	64	21	171	37	97	66	74	135	792
	合格率		38.72%	21.69%	5.20%	43.73%	9.56%	41.45%	31.28%	36.63%	78.03%	30.17%
受験者計		2,964	4,044	3,034	3,000	2,653	2,822	2,380	2,109	1,785	1,472	26,263

(7) 事業委員会

- 委員会を1回開催
- 楽器フェア説明会に出席
- 楽器フェア参加を検討したが、運営委員会にて参加見送りを決定

(8) 広報委員会

- 委員会を3回開催し、AMEI News 編集を検討した。
- AMEI News を3回発行 (Vol.32 4月発行、Vol.33 7月発行、Vol.34 11月発行)
- AMEI ホームページに、MIDI 規格委員会及び製品・安全環境委員会の専用ページを設定し、会議開催前の資料の事前アップロード及び議事録をアップロード等活用を強化した。